

留学生 12人が大学へ ネパールからも初の学生



開校式に臨む留学生（写真提供＝国際交流センター）

9月2日、国際連携教育 郷キャンパスB'sダイニンプログラムの開校式が、本日で終わりました。今年、

アメリカのセント・ジョーンズ/セント・ベネディクト大学から9人、マレーシアのマラ工科大学から2人、そして今回初となるネパールのカニヤ(ガールズ)キャンパス・ボカラから1人の総勢12人の留学生と、セント・ジョーンズ/セント・ベネディクト大学からマンジュ・パルク教授が引率教員として来校。

開校式では川邊信雄学長、野口昇副学長・国際交流センター長から激励の言葉を受け、それぞれ自己紹介を終えた留学生は、緊張も解けた様子でした。

日本での地震を不安に思う留学生のために、オリエンテーションの一環で、まずは東京消防庁本所都民防災教育センターを訪問。実際に起震車などで地震を体験し、身の守り方を学びました。さらに、12月16日までの約15週間、本郷キャンパスで授業を受け、ホームステイ体験、軽井沢セミナーハウスへの研修旅行、根津神社の例大祭への参加、日本企業見学などにより、日本文化や社会について学んでいきます。